

I 目的

- 1 「主体的・対話的で深い学び」を推進するため、学級集団や児童一人一人の課題把握・話し合い・合意形成・意思決定・協働実践できる資質・能力を育成する。
- 2 「主体的・対話的で深い学び」の基盤としての、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるための学級経営力の向上を図る。

II-1 「主体的・対話的で深い学び」を成り立たせる要件

- ① 学級の目標やめあてに力を合わせて取り組んでいる学級。
- ② 係や当番、委員会や実行委員会などの活動に責任をもって取り組み、学年・学校づくりに貢献している学級。
- ③ 分け隔てなく、誰とでも接し、協力して活動ができている学級。
- ④ 誰もが自分の意見や考えに理由を付けて発言することができる学級。
- ⑤ 授業中、学び合いや教え合い、高め合うことができる学級。

II-2 「主体的・対話的で深い学び」を支える要件

- ① 誤ったことをしている友達がいたら、見て見ぬふりをせず、注意することができる学級。
- ② 友達の心を傷付けることを言ったり、からかったりしない学級。
- ③ 自分や友達のよさを認めてくれる学級。
- ④ 授業中にむだなおしゃべりや手いたずらをしない学級。
- ⑤ あいさつがしっかりできる、ろうかを走らないなど、意味を理解して学校のきまりを守っている学級。

III 具体的展開

1 児童一人一人が自らの学級を10項目から自己評価をする。(1・2年、3～6年生用)「アンケートに記入する。」
〈5月・7月・12月・2月の4回実施 PDCA サイクル化〉

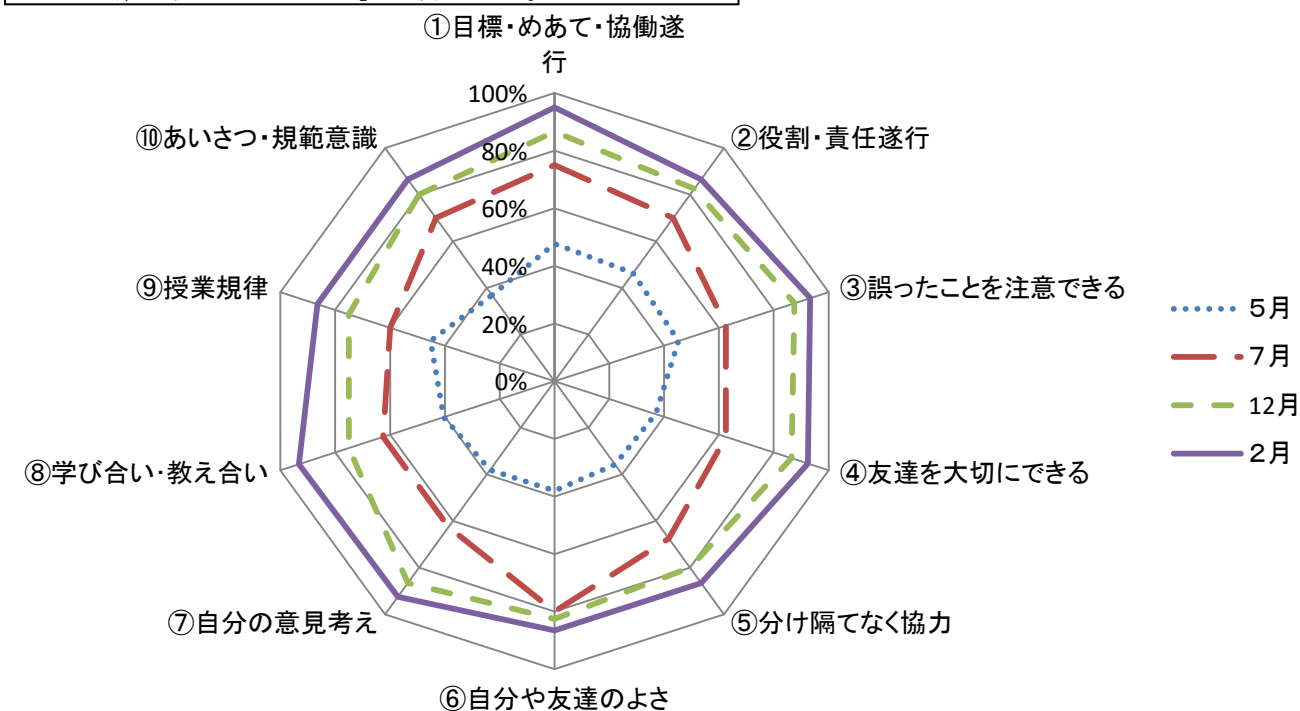
2 評価結果を集計表に付加し、グラフに反映させ、教室内に掲示する。(いつでも、児童が見られるようにする。意識化を図る。)

5 児童一人ひとりが協力して、改善策を学級で実施する。

4 学級で、グラフを基に、よさをさらに伸ばすため・課題を解決するための改善策について話し合う。

3 グラフを基に児童一人一人が学級のよさや課題を把握する。

◇ グラフを基に明らかになったよさや、課題→話し合った解決策を「グラフ上」に書き込む。



IV 評価項目 (児童による自己評価項目) 4とてもそう思う、3そう思う、2あまりそう思わない、1思わない

①	学級の目標やめあてに力を合わせて取り組んでいる学級です。	4	3	2	1
②	係や当番、委員会や実行委員会などの活動に、責任をもって最後まで取り組み、学年・学校づくりに貢献している学級です。	4	3	2	1
③	誤ったことをしている友達がいたら、見て見ぬふりをせず、注意することができる学級です。	4	3	2	1
④	友達の心を傷つけることを言ったり、からかったりしない学級です。	4	3	2	1
⑤	分け隔てなく、誰とでも接し、協力して活動することができる学級です。	4	3	2	1
⑥	自分や友達のよさを認めてくれる学級です。	4	3	2	1
⑦	誰もが自分の意見や考えに理由を付けて、発言することができる学級です。	4	3	2	1
⑧	授業中、学び合いや教え合い、高め合うことができる学級です。	4	3	2	1
⑨	授業中にむだなおしゃべりや手いたずらをしない学級です。	4	3	2	1
⑩	あいさつがしっかりできる、ろうかを走らないなど、学校のきまりを守っている学級です。	4	3	2	1

◇ 学習や生活の中で、感想や要望があったら、遠慮なく書いてください。